



# 初雁中だより

第 7 号

令和5年11月1日(水)

<p>学校教育目標</p> <p>学びあい 豊かな心で 未来をひらく生徒</p>	<p>初雁中の目指す姿</p> <p>◇目指す学校像  なりたい自分にする学校 ◇目指す生徒像  なりたい自分になる生徒 ◇目指す教職員像 「なりたい」を教え導く教職員</p>
--------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------

## 十歌夢奏～power of smile～のスローガンのもとに

校長 矢部智史

11月(霜月)に入りました。陰暦と陽暦では1か月ほど差があるため、霜月といっても、ここ関東地方に霜が降りるのは当分先のようにも思えます。しかし、和暦には季節感にあふれた言葉や繊細な描写、想像力豊かな感性がちりばめられているように見え、そこに古人の美学を感じずにはられません。

さて、先月27日にウエスタ川越で合唱祭が行われました。周知の通り、校内では川越まつり明けからインフルエンザの感染者が急増し、感染抑止の対応に追われました。下校措置や学級閉鎖など、その日その日の状況を見極めつつ合唱祭までには何とかインフルエンザを抑え込みたいと考えていました。直前になって、どうにか感染者数が下火となり、合唱祭当日を迎えることができました。しかし、ここ2週間余りは十分な練習をすることができませんでしたので、生徒も教職員も不安な気持ちで当日を迎えたことと思います。一方で、昨年までのコロナ禍の中、限られた状況下で最高のパフォーマンスを追求する態度、やる気や心構えを育ててきた生徒たちですから、この危機的状況を乗り越えてくれるだろうという期待を私は持っていました。



「十歌夢奏～power of smile～」のスローガンのもと、合唱祭が幕を開けました。素晴らしい歌声がホールいっぱいに広がった時は、感動と安堵感で胸がいっぱいになりました。「合唱」には、個々の思いをうまくブレンドし、歌声として輝きを解き放つ魅力があると思います。それが多くの人の心を揺さぶり、聴衆を感動させます。また、合唱祭は歌手と観客が一体となって創り上げていくものだと思います。まさに、当日の合唱祭は、初雁中でしか創造しえない歌の世界が広がったと思います。



合唱祭を成功させるため、生徒たちは日々のプロセスを大切にし、努力を積み重ねてきました。その裏には、合唱祭実行委員の皆さんやパートリーダーの皆さんの大きな活躍がありました。皆さんの熱い思いや苦勞があったからこそ、これだけ実りある合唱祭になったのだと思います。また、当日の運営をPT会の役員の皆様や多くの方々に支えていただきました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。